

# VII 実践報告フォーラム 2015

## ■ 開催概要

- ◆ 日時：平成27年2月8日(日) 10:00~16:30
- ◆ 場所：なごや地球ひろば2階 セミナールームA・B・C
- ◆ 参加者数：一般参加者144名、受講者43名、JICA12名、NIED6名、合計205名  
(一般参加者内訳：教員78名、学生27名、行政・教育委職員6人、その他33人)
- ◆ ファシリテーター：(特活) N I E D ・ 国際理解教育センター 伊沢令子、研修受講者

## ■ フォーラムのねらい

- ①【研修者】実践報告、モデルプログラムのファシリテートと参加者との意見交換を通して、実践の自己確認、総括を行い、ネクストステップへの意欲を高める。
- ②【参加者】実践者の成果と課題を共有し、自らの実践のヒントとネットワークを得てもらう。
- ③【主催者】開発教育・国際理解教育を推進し、研修事業の次の参加者を広げる。

## ■ プログラムの内容

### ● セッション1 「導入と実践報告ポスターセッション」

#### 1. あいさつ・概要説明など 10:00-[20]

- ◇ 主催者（JICA 中部八重樫次長）が主催者あいさつを行った。
- ◇ 開発教育指導者研修（実践編）および教師海外研修プログラムの概要をパワーポイントでJICA 中部の職員が説明した。
- ◇ フォーラムのねらいとプログラムについてファシリテーターが説明した。
- ◇ 挙手アンケートで、どんな人が参加しているか確認した。



#### 2. 42人ポスターセッション（実践報告） 10:20-[90]

- ◇ 前半40分の21人、後半40分の21人に分けて、拡大した実践報告シートや参考教材等を使いポスターセッション（実践報告）を行った。10分間を一つの区切りとし1人3セッションの報告や質問を行った。



- ◇ ポスターセッション終了後、午後のプログラム、昼食について説明した。

- 休憩 - 11:50-[60]

### ● セッション2 「海外研修報告」

#### 1. 教師海外研修報告（ラオス） 12:50-[23]

- ◇ 同行ファシリテーターによるチーム紹介後、次の流れで海外研修報告を行った。
  - ① ラオスの人が大切にしている「家族」や各訪問先で聞いたラオスの人の「夢」を、写真を見せながら紹介
  - ② ラオスの文化や国民性についての三択クイズ
  - ③ 現地の交流会で披露した「AKB48のヘビーローテーション」



## 2. 教師海外研修報告（ガーナ） 13:13-[22]

- ◇ 同行ファシリテーターによるチーム紹介後、次の流れで海外研修報告を行った。
  - ① 写真とロールプレイ付きで現地での体験したことの三択クイズ
  - ② 学校訪問、農村訪問での気づき、出会いを、写真を使い紹介
  - ③ 全員が前に立ち、代表して総括のあいさつ



## ● セッション3 「実践教材体験ワークショップ」

### 1. ワークショップの説明など 13:35-[20]

- ◇ 前半、後半4つずつのワークショップのテーマ、キャッチフレーズ、会場について説明した。
- ◇ 参加希望を挙手で確認し、希望者の多少を共有したうえで人数調整を参加者にお願した。
- ◇ 必要に応じて会場設営し、希望するワークショップ会場へ移動した。

### 2. 実践教材体験ワークショップ ①（B～Eチーム） 13:55-[60]

- ◇ 4つの会場に分かれて、以下のB～Eチームがワークショップを実演した。詳細は次ページ以降参照。

- B分科会（国際協力）…「えー!?! 知らなかったよ〜!!」
- C分科会（肯定的な出会い）…「「いいね」すると あったかいんだから〜♪」
- D分科会（子どもの貧困・教育）…「学校に行けなくなった…その時あなたはどする?!」
- E分科会（越えよう共通の課題）…「あなたの一歩で世界は変わる」



- ◇ 移動 10分

### 3. 実践教材体験ワークショップ ②（A、F～Hチーム） 15:05-[60]

- ◇ 4つの会場に分かれて、以下のA、F～Hチームがワークショップを実演した。詳細は次ページ以降参照。

- A分科会（多様性・同一性）…「ちがいを楽しもう!」
- F分科会（めざそう地球市民）…「ラオスと日本 あなたと私」
- G分科会（貿易・フェアトレード）…「チョコのこともうチョコっと知りませんか?」
- H分科会（共生に向けて）…「NAGOYA でみんな笑顔になろう」



- ◇ 移動 10分

## ● セッション4 「ふりかえり・閉会」

### 1. ふりかえり・閉会 16:15-[15]

- ◇ フォーラムのふりかえりを各自シートに記入した。
- ◇ 受講者を代表して橋口幸三さんが、閉会のあいさつを行った。

※ 閉会后 30 分間、参加者と受講者が自由に歓談、交流を行う。

## ■ 実践教材体験ワークショップの内容

### ●A分科会の記録（B1会場）

テーマ	多様性・同一性 (ガーナ研修メンバー)	タイトル	ちがいを楽しもう！	
ねらい	違いを楽しむ経験をとおして、平和の作り方を考える。			
参加者	合計 38 人	参加者 30 人	提供者 5 人	スタッフ 3 人
時間	プログラム		参加者の反応	
15:05	1 アイスブレイキング ◇あいさつ ◇自己紹介「好きな卵料理は？」(a) ◇誕生日でグループ替えをする。(b)		(a)笑顔を自己紹介している。 (b)「もうグループ替え？」の驚きの反応がある。	
15:12	2 欲しいものを手に入れる時はジャンケン？話し合い？ ◇「最新のスマートフォンが一つだけグループに配られる。手に入れられるのは一人だけ」という場面設定でジャンケンと話し合いのどちらで決めるか？考える。 ◇個人で考え、意志を挙手で表明する。(a) ◇理由を3人に聞く。(b)		(a)参加者の選択は50/50である。 (b)ジャンケンの方が得られる確率が必ずある。/お互いの思いを共有して誰がもらうのが一番良いかを考えた。/自分はスマートフォンには興味がないので、話し合いがどのように進められるのかに興味がある。	
15:18	3 ジャンケンと話し合いの良いところ・心配なところを考えよう！ ◇対比表で考える。(a) ◇回覧版方式で3グループの模造紙を共有する。(b) ◇出ていた意見をファシリテーターがまとめて発表する。		(a)付せん紙を使ってお互いの意見を共有している。 (b)他のグループの模造紙を見ながら活発に意見交換している。	
15:34	4 ガーナの場合・・・ ◇ガーナ研修中、子どもに人数より少ない折り紙を渡した時、なんの争いもなく配られたエピソードをファシリテーターが紹介する。ガーナにはジャンケンはない。			
15:38	5 平和に物ごとを決める三カ条を作る ◇争いが起こるのはどんな場面かを考える。(a) ◇三カ条を作る。(b) ◇全体共有 グループごとに三カ条を発表する。		(a)指示に戸惑い、「今何を考えるのか？」という質問が出る。 (b)真剣な話し合いをしながら三カ条を作っている。	
16:02	6 あいさつ ◇ファシリテーターから参加お礼の挨拶をする。			

## ●B分科会の記録（C会場）

テーマ	国際協力 (ラオス研修メンバー)	タイトル	えー!!? 知らなかったよ～!!
ねらい	「知る」ことが国際協力の第一歩であることに気付く。		
参加者	合計 33 人	参加者 24 人	提供者 5 人 スタッフ 2 人
時間	プログラム	参加者の反応	
13:55	1 アイスブレイキング ◇あいさつ ◇席替え…グループ内で手のひらの大きさを比べる。一番大きい人と小さい人が移動。 ◇自己紹介…名前、どこからどのように来たか(a)	(a)席替えて緊張が打ち解けたようで、各グループ笑顔で参加している。	
14:03	2 フォトランゲージ ◇なりきり自己紹介…今回は時間の都合で実施しないが、ラオスの人になりきって自己紹介をする予定だった。 ◇1人1枚ずつ担当し、ラオスの写真がどのような場面かを想像して、紙に記入する(a) ◇どんなことを書いたか、グループ内で共有する。(b) ◇グループでどんな話が出たのかを全体で共有する。(c)	(a)写真を見ながら熱心に想像し書いている。 (b)笑い声や拍手が聞こえ盛り上がった様子。 (c)「大きな笑い声」や「拍手」が起こり、楽しそうな様子。	
14:20	3 みんなでラオスを知る。 ◇先ほどの写真がいったん何の写真だったかをファシリテーターが丁寧に説明する。(a)	(a)「へえー」「ほー」などの言葉が聞こえ熱心に聞いている。	
14:40	4 ふりかえり ◇今日のワークで一番印象に残ったこととその理由をグループ内で共有する。(a)	(a)「はじめてでした」「あまり知らない国のことをすることができてよかった」「ずっと長い支援が必要だと感じた」などの感想があった。	
14:45	5 全体の感想・質問 (a)次のような質問が出て、ファシリテーターが回答をした。 ◇ウェイトピッカーの人たちへの支援はあるのか? →それは聞いていないが、ほかの支援活動はしている。 ◇クッキーは誰が買うのか? →分からないが業績は良い。10枚120円程度。日本の高級クッキーと大差ない。 ◇ラオスでは医療を受けることのできる環境があるか? 病院はガラガラではないか。 →病院がガラガラということはない。JICAが送った救急車も見た。医者や買い物などに使われている。 ◇ラオスの物価はどのようなものか? →外食で比べると日本の半額程度。 ◇救急車が日本と同じように使われないのはなぜか。→電話して、救急車を呼ぶような仕組みがない。		

## ●C分科会の記録（B1会場）

テーマ	肯定的な出会い (実践編メンバー)	タイトル	「いいね」すると あったかいんだから～♪
ねらい	①価値観の違いを知る。②肯定される嬉しさを感じる。③お互いの違いを認め合う事で豊かな考えが広がる。		
参加者	合計 37 人	参加者 29 人	提供者 6 人 スタッフ 2 人
時間	プログラム	参加者の反応	
13:55	1 あいさつ 2 アイスブレイキング ◇自己紹介「私のウリ」(a) ◇自己紹介「2つのわたし、ひとつはうそ」(b)	(a)笑顔で話し合っている。 (b)どちらが本当なのかを当てることでお互いへの関心が深まっている。	
14:10	3 夢を語ろう ～ロールプレイ～ ◇自分の夢を考える。 ◇グループ内で自分の夢を発表する。聴き手は4つのロールプレイカードの態度で聞く。(a) ①「いいね！」+肯定的なコメント ②「そうなんだあ」 ③無視する ④「ありえな～い！」+否定的なコメント	(a)初めはどう反応しながら聞けば良いのか戸惑いもあったが、二人目からは進め方の理解が深まり、ロールプレイを楽しんでいる。	
14:32	4 違いを認めないと・・・ 認めると・・・ ◇「違いを認めないとどうなるか」を派生図で考える。(a) ギャラリー方式で共有する。良いと思った意見には「いいね～」の印をつけてくる。(b) ◇「違いを認めるとどうなるか」を派生図で考える。(c) 回し読み方式で共有する。 ◇「違いを認めないと・・・」の究極の結果を発表する。(d)	(a)グループ内でメンバーの意見を聞きながら自分の意見を話し、派生図を広げている。 (b)静けさの中、グループの意見を見て回っている。 (c)二回目の派生図となり、話し合いが活発になっている。笑い声も聞こえる。 (d)戦争／死の意見が出る。	
14:50	5 ふりかえり ◇「ロールプレイをやってみてどうだったか」 「模造紙回し読みで「いいね」をもらったときどう感じたか」を問いかける。(a) ◇ファシリテーターが自分の意見を言う。 ◇「いいねすると暖かいんだから～♪」を参加者全員で手話付きで唱和する。(b)	(a)グループ内で話し合う。 (b)全員起立して笑顔で唱和する。	

## ●D分科会の記録（B2会場）

テーマ	子どもの貧困・教育 (実践編メンバー)	タイトル	学校に行けなくなった…その時あなたはどようする?!
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の大切さや貧困を伝える手法を持ち帰る。</li> <li>・ファシリテーターとしてのやる気を引き出す。</li> <li>・子どもの貧困、教育について興味をもち、解決しようとする態度を育てる。</li> </ul>		
参加者	合計 46 人	参加者 37 人	提供者 6 人 スタッフ 3 人
時間	プログラム	参加者の反応	
13:55	1 あいさつ&アイスブレイキング ◇あいさつ(提供者自己紹介) ◇アイスブレイキング…自分を食べ物に例える。「私は○○です。」理由も加えて自己紹介しあう。(a)	(a)初対面ということもあり、最初は緊張している様子だったが、自己紹介をするうちに打ち解けてきた。ファシリテーターの言葉に対して、笑い声も出てきた。	
14:02	2 「学校に行ける国」「学校に行けない国」 ◇3グループずつ、「学校に行ける国」「学校に行けない国」について派生図をつくる。(a) ◇派生図をギャラリー方式で共有する。同じテーマで→違うテーマで回す。なるほどと思う意見には☆ これはやばい!というものにはドクロマークをつける。(b) (ギャラリーと説明したが、回し読みを行った。) ◇グループで感想を共有する。(c) ◇資料(世界の就学率、学校に行けない理由)から現状を知る。(d)	(a)一人ひとりペンを持ち、口に出しながら線であつないで派生図を広げている。「おお。」「あぁいいね。」といった声があがる。どうつなげていかにじっくり考える姿もある。 (b)他のグループの派生図に興味深く見ている。「確かに確かに。」という声や「やばいってどういうこと?」という疑問もあがる。笑い声があがるグループも。 (c)生徒がやったらどうなるのかな。学校に行けるのは当たり前ではない。いろんなとらえ方ができる。派生図を書くことで、自分にない意見を知れた。などの意見が出る。 (d)熱心に就学率の世界地図を見ている。	
14:28	3 ムハンマド一家を救え! ◇資料からムハンマド一家の現状を読み取る。(a) ◇貧困や学校に行けない状況を救うために、どうしたらよいか、考えをブレインストーミングで出す。(b) ◇出た意見をグループごとに発表する。(c) ◇実際にどのように解決に向かったか(マイクロクレジット)の事例を紹介する。 →自立に向かうきっかけ、第三者の考えの大切さ	(a)じっくり資料を読んでいる。 (b)自分の意見を積極的にグループのメンバーに伝える人、じっくり考える人がいる。メンバーの発言に、うんうん、とうなずきながら様々な意見を受けとめている様子。模造紙いっぱいのが考えが出たグループも。 (c)井戸を作る、職業訓練、品種改良、仕事を変える、学校を無償化に、付加価値をつける、環境を整える、ODAの活用、地域での助け合い、などの意見がでる。	
14:50	4 振り返り ◇グループ内で、学んだこと、今後どう生かしたいか(可能であれば)を共有する。(a) ◇ファシリテーターから感想とお礼	(a)言える準備ができた人から、という指示だったため、少し沈黙になったが、すぐにそれぞれの学びを伝えあっていた。拍手をしながらお互いの振り返りを聞いている。意見を共有することで、自分では気付かなかったことに気付くことができた。子どもがやるには少し難しいかもしれない。などの意見が出された。	

## ●E分科会の記録（A会場）

テーマ	越えよう共通の課題 (ガーナ研修メンバー)	タイトル	あなたの一歩で世界は変わる
ねらい	知り気付き行動するプロセスを体感し、一歩踏み出す！！		
参加者	合計 49 人	参加者 41 人	提供者 5 人 スタッフ 3 人
時間	プログラム	参加者の反応	
13:55	1 アイスブレイキング:仲間探し 仲間壊し ◇①所属、②好きな季節の順に仲間を探して集まる。(a)	(a)最初はちょっと不安げ、動き出したらいきこにこにここと笑顔	
14:07	2 世界がもし40人のクラスだったら ◇5つの輪(五輪)のように大陸を40個のいすで表す。(a) ◇人口比に合わせて各大陸の人数を伝え、大陸を表したいいすに座る。(b) ◇シャンペングラスの図を見せ、富の分配を説明する。 ◇くじを引いてもらって富の分配の上位者を各大陸事の人数で示し、立ってもらう。(d) ◇上位者に 10 本のジュースのうち、8 本を配る(一人1本)。中位者も大陸ごとに立ち、ジュースを1本を分け合う。残りのメンバー(大多数)は下位者を表す。その多数のメンバーでジュース1本を分ける。(e) ◇くじに書いてあった番号に従い、班に分かれ、席について資料「世界がもし100人の村だったら食料編」を読む。	※活動補足:面積比でいすの個数を決め、世界地図上の位置にあわせて配置する。 (a)協力しながら、いすを動かす。 (b)笑い声を出しながら、混み具合を味わっている。 (d)お～、というどよめき。 (e)上位者…にこにこしながら取りに行く。他の人は、ああ、といった顔。次を想像するようだ。中位者…ジュースを分けないととれないことに気付き、コップに協力して分け合う。下位者…分けられず、どうしようもないな、という笑い声。頷く顔。	
14:25	3 グループ編成後のアイスブレイキング ① 自己紹介「自分が行ったことのある国」「行きたい国」の両方を話す。(a)	(a)すでにうち解けている感じ。あちらこちらから拍手。頷きながら話を聴く様子。「理由をいいながら話している。拍手が素晴らしい」とファン。	
14:30	4ブレインストーミング「私たちができること」:関連図 ◇模造紙の中心に「私たちができること」と書き、世界の問題に対して自分たちができることを書き出す。(a) ◇自分が今すぐできると思うことに☆印を付ける。(b) ◇成果物の回し読みで共有し、「今すぐできること」「いいなと思うもの」に☆印を付ける。 ◇自ら行った温度計援助の話(小さな一歩の例)(d)	(a)わいわいと話しながら、積極的にペンを動かす。「あ～」「へえ」「いいですね～」などの声。 (b)相談したり、個人で考えながら☆を付けている。 (c)どのように☆を付けていくのだが、積極的に付けているのは「できること」なのか「いいな」かは分からない。 (d)だまって一生懸命聴いている。	
14:45	5 今日のプログラムの説明と質疑応答、感想の共有 ◇ガーナのカカオの話などよく聞か、実際はどうだったか。→カカオの農家訪問。幹から実がなるカカオの収穫を見てきた。児童労働の事実は、教科書とはギャップがあることにとまどった。ガーナ政府は児童労働がなくなるよう取り組んでいるのが姿勢。そういう問題がある、ということには変わらない。また石油も開発され、大きく発展している状態だ。 ◇「チョコレートの真実」を読んでガーナのことだと思っていた。ステレオタイプだと反省した。 ◇実際にジュースは飲んだのか。→飲ませていない。クッキーでもやったが、クッキーは食べた。豊かな国になって、全部食べてしまった子もいた。感想を聴かせて欲しい。→何人かが感想を述べた。		

## ●F分科会の記録（B2会場）

テーマ	めざそう地球市民 (ラオス研修メンバー)	タイトル	ラオスと日本 あなたと私	
ポイント	「日本とラオス」、「あなたと私」 共通性と多様性に気付ける。			
参加者	合計 31 人	参加者 25 人	提供者 4 人	スタッフ 3 人
時間	プログラム		参加者の反応	
15:05	1 アイスブレイキング～出会い～ ◇あいさつ ◇自己紹介…好きな外国の料理、又は食べてみたい外国の料理(a) ◇ラオスクイズ…グループの中で、封筒に入っているクイズを一人一つ出し合う。(b) ◇グループの中で、「これおもしろいんじゃない。」というクイズを選び、全体に問題を出す。(c)		(a) とてもなごやかに話が弾んでいる。笑顔で笑い声があがっている。拍手をしあう姿もある。 (b) 正解し「やった！」という声があがったり、答えを知って「へえ～」という言葉が出たりしている。 (c) 効果音を入れるなど、盛り上がっている。	
15:12	2 二次元軸表～気づき～ ◇グループに配られたラオスの写真をじっくりながめ、気付いたことを付箋に書き出す。書き出した付箋を二次元表(縦軸:日本とラオスを比べて似ている、似ていない／横軸:よい、悪い)に貼る。(a) ◇前後のグループで写真を交換して、さらに気付いたことを書き出して貼る。(b) ◇付せん紙の位置がよいかグループで検討する。(c)		(a) 写真から分かることをたくさん出している。「これはいい？悪い？」と考えながら二次元軸表に貼っている。 (b) 付せん紙が足りなくなるグループも出てきて、ファシリテーターが補充する。 (c) 立ち上がって、模造紙に貼られた付せん紙をじっくり見る参加者もいる。話し合っ、付せん紙の位置を貼り直すグループもいる。	
15:40	3 いいね～共有～ ◇二次元軸表を前後のグループで交換して見合う。ペンを持って、この意見はいい！というものには☆印、よく分からないなあ、というものには？印をつける。(a) ◇二次元軸表を元に戻し、自分たちのものにどんな印がつけられているかを見る。(b)		(a) 同じ写真から作られた、別のグループの二次元軸表を興味深く見て、1つひとつについてグループで話しながら☆や？の印をつけている。 (b) 他のグループからの反応を知り、うなずいたり、笑い声が上がったりする。あらためて写真を見る人もいる。	
15:47	4 振り返り ◇グループ内でざっばらんに感想を共有する。(a) ◇グループでどんな話が出たかを発表する。(b) ◇ねらいや流れの確認とファシリテーターの思い ◇おれとあいさつ		(a) ☆マークがついて返ってくるとうれしい。何十年か前の日本と似ていると感じた。などの感想が出た。 (b) 写真から得る情報は多い。そのとらえ方は人それぞれ。似ているけれど悪い、という部分がありなかったが、それを表す写真はどんなものがあるか。無意識に、自分たちと似ているものは悪くないというステレオタイプで見ているのかもしれない。同じ写真でも、背景を知ると見方が違ってくる。似ている、似ていないは意見が一致することが多かったが、よい、悪いは主観が入るので違ってくこともある。	



## ●G分科会の記録（A会場）

テーマ	貿易・フェアトレード (実践編メンバー)	タイトル	チョコのこともうチョコっと知ませんか？
ねらい	フェアトレードについて自分にできることに気付いてもらう。		
参加者	合計 57 人	参加者 48 人	提供者 6 人 スタッフ 3 人
時間	プログラム	参加者の反応	
15:05	1 自己紹介(a) ◇名前、バレンタインデーの甘い or 苦い思い出を1人 30秒で紹介する。	(a)後半ということもあり、最初から盛り上がっている。拍手、笑い声多数。	
15:12	2 チョコレートのできるまで ◇くじに書いてあった国の共通点について考える。(a) ◇カカオのとれる国上位数カ国を伝える。 ◇カカオの収穫からチョコレートができるまでをスライドで説明する。(b)	(a)すぐに1名挙手「カカオのとれる国」 (b)熱心にスライドを見る。	
15:18	3 カカオの生産者の立場になって考える。 ◇配られた紙を見て、自分の立場を知る。 ※立場:カカオ農家、輸入業者、製造者、販売者 ◇1枚のチョコレートを作るに当たって、どれぐらいの費用がかかりどれぐらいのもうけを入れ、いくらでうかを考える。 カカオ農家は輸入業者に知らせ、輸入業者は製造者に知らせ、という風に値段を決めていく。(a) ◇1枚 55 円、といったような安いチョコもある。1枚の 100 円の板チョコでカカオ 10 粒。正解は 1 円。(c)	(a)一生懸命話し合い。盛り上がっているが、量的な物は提示されておらず、どこから考えるか、とまどっている様子もあった。それでもあれこれ考えて形になった。 ※最終値段:3,000 円(王室御用達)、500 円(小売りに合わせて)、2,000 円(農家 100 円から始めた)、100 円(小売りから設定。)、450 円(何人家族でいくら儲けるか。メキシコだったら1,500ドル稼ぐ所から始めた)、680 円(プレゼント向け。農家から考えた)、1,300 円(カカオ農家 250 円からスタート) (c)目立った反応は、はあまり感じられなかった。	
15:48	4 フェアトレードについて ◇フェアトレードに関する資料を読み、共感を得るまたはもっと知りたいという言葉に線を引く。(a) ◇線を引いたところを、グループ内で共有する。(b) ◇フェアトレードの説明	(a)一生懸命に読む (b)「フェアトレードの物をなんで買うのかということみんながわかるといい」「みんなが買えば質も上がるし、値段も下がる」などの声が聞こえる。	
15:58	5 まとめ、質疑応答 ◇値段の「向こう側」には意味があると考えて、買い物をして欲しい旨伝える。 ◇公正な価格とはどういう価格だと思うのか。→自分たちで生活できる値段を設定することだと私は考えている。 ◇フェアトレードは高い。フェアトレードの物を買う、ということはボランティア精神でかえ、ということでしょうか。 →意識してもらうことが第1歩、だと思う。		

## ●H分科会の記録（C会場）

テーマ	共生に向けて (実践編メンバー)	タイトル	NAGOYA でみんな笑顔になろう	
ねらい	違いを認め合える大切さに気づく			
参加者	合計 33 人	参加者 25 人	提供者 6 人	スタッフ 2 人
時間	プログラム		参加者の反応	
15:05	1 自己紹介 ◇模造紙に自分の名前を書きながら自己紹介を行う。(a) ◇自分たちの共通点を探して出来るだけ多く紙に書く。(b) ◇書いたことの中で他のグループにないと思う共通点を発表する。(c)		(a)2 回目ということもあり、打ちとけあっている様子。 (b)「ラーメンが好き」「女」「かわいい」などが挙がっている。 (c)「愛知県出身」「気持ちは 17 歳」等が出て、歓声があがっていた。	
15:15	2 みんなが笑顔になれる NAGOYA ツアーを考える。 ◇グループでツアーの計画を考える。条件は「名古屋市内」「いろんな人が楽しめる」こと(a)		(a)歓声があがり、とても盛り上がっている。	
15:45	3 ツアーのプレゼンテーション&投票 ◇1 班 2 分のプレゼンテーション (a) ◇席を立ち、1 人 1 票でみんなが笑顔になると思ったツアーに投票 (b)		(a)次のようなプレゼンテーションが行われた。笑い声が聞こえ、とても楽しい雰囲気で行っていた。 (b)参加者同士話しながら、☆をつけていた。1 位は、12 票だった。順位発表時には大きな拍手が聞こえた。	
	<p>☆黒っぽい服株式会社 名古屋めし、名古屋市科学館、名古屋城、コマダコーヒー、ひつまぶし、名古屋港水族館に行くツアー11758 円</p> <p>☆1 日スマイルツアー 名古屋駅金時計集合、コマダコーヒーにて朝食、春祭り@名古屋城。外国人の方や家族連れの方、ベジタリアンの方にも対応する予定。</p> <p>☆爆笑・食・買ツアー~!! 名古屋駅ナナちゃん足元集合、鶴舞後援で花見、大須でランチ、ノリタケの森でお皿の絵付け体験、駄菓子の間屋街に行く。外国籍の方には、留学生が語学サポート。5000 円</p> <p>☆楽しい!嬉しい! win win ツアー in Nagoya 名古屋城、名古屋めしバイキング、アレルギーベジ、ハラル表示あり、オプションツアー(動物園、徳川園、科学館)、スタンプ数でお土産ゲット。自宅送迎付き。</p> <p>☆名古屋防寒ツアー 自転車ウォークラリー(ツインタワー、水族館、名古屋城、大須)、地下街でランチ、野球観戦(中日/巨人) ドアラちゃんと戯れタイム。ドアラの肩もみつき。商品券付き。</p>			
16:03	4 ふりかえり&まとめ ◇ファシリテーターからまとめのコメントがあった(a)		(a)熱心に聞いていた。	

## ●ふりかえりシートの回答

※「ふりかえりシート」を一部集約して掲載した。( )内は記入者の属性

### 「発見したこと、嬉しかったこと」初参加者

- いろいろな視点を持つことの大切さ。人の考えを聞くことが自分の学びにつながる(教員)。
- 国際協力について自分で考えていても、なかなか行動につながらなかった。フォーラムで同じことを考えて行動している仲間がたくさんいると知って嬉しかった(教員)。
- 初対面の人もテーマに沿って一緒に考えることを楽しめた。たくさん人の熱意を感じ、刺激を受けた(教員)。
- いろんな人と意見を共有できたことが嬉しかった(教員)。
- 参加者が積極的に吸収しようとしていた(教員)。
- 発表者が自信を持って生き活きとプレゼンしていた(教員)。
- 高校の授業で ESD や人権教育などの実践ができるのかどうか不安だったが、ポスターセッションで実際に授業の中で活動があることを知り、取り上げる大切さを学んだ。(学生)。
- 小・中・高と、参加型形式の授業で受けてこなかった。今回発表をした先生方の生徒さんたちをうらやましい!と思った(学生)。
- 知らない人同士が初めて会って、こんなに楽しく一つのことを作り上げることができることにとても驚いた。すごく満足した(その他)。
- 同じ「教育」というテーマで、熱く語れた(その他)。
- イベントにはやはり出会いがある!視野が広がる!(その他)。
- 学生の参加者が多く、若い世代の関心の高さを実感した。教員も多く、子どもたちへの還元がこれから楽しみ(教員)。
- 10代 20代という若い人たちが本当に真剣に取り組んでいることを知り、これからの日本も棄てたものではないと思った(教員)。
- 違いを認めることの良さを再確認できた(教員)。
- 大人からの目線と私の目線は違う。いろんな視点がある。人の意見はそれぞれ違っていてももしろかった(学生)。
- 自分の意見を受け入れてもらったり、自分が出した意見を称賛してもらえたり、発展していったりすることが嬉しかった(学生)。
- 自分自身が海外に目を向けるだけでなく、それを伝える大切さ、そして自国を見つめる大切さを知った(教員)。
- 新しい国際教育の視点を発見した。アイデアの枠が広がった(教員)。
- 教育と生命のつながりに気づくことができた。教育を受けることができるこの現状をかみしめて、もっと学びを大切にしていきたい(学生)。
- 教育現場での国際理解教育の効果や大切さを発見した(学生)。
- 1人の行動でもつながれば大きくなり、継続する力になる。
- 熱い思いや実際の取り組みを知ることで、今後の自分の活動へのアイデアやネットワークにもつながる(その他)。
- ガーナもラオスも、「物」がなくても「心」が豊かな国だと伝わってきた(無記入)。
- 自分のすべきことは何かと考える機会をもらった(学生)。

### 「発見したこと、嬉しかったこと」2回以上参加者

- 現場で頑張っている人や前向きな先生方に出会うことは、自分にとっても大きな力となる(教員)。
- この研修・フォーラムで出会った仲間との再会。近況を報告しつつまた頑張ろうと刺激を受けた(教員)。
- 若い世代がいきいきと自分の意見を語っていた。自分の考えが肯定されるからだと思う。職場の若い子たちもいきいきと活動できるよう、新しい考えを受け入れられる自分でいたい(教員)。
- 高校生も学ぶために参加していたことがわかり嬉しかった。若い参加者に触発された(教員)。
- 参加者、受講者が年々若くなっていく。思いが引き継がれていること、国際理解・開発教育の輪が確実に広がっていると感じる(その他)。
- 「違いを認める」という、今を生きる私たちにとても大切なことを再確認できる、素敵なお取り組みにたくさん触れられた(教員)。
- 顔を会わせて 10 分足らずで、ここまで関わられるなんて。参加型ってやっぱりすごい(その他)。
- 教師海外研修の先生方の授業の工夫がみられ、さらに一般受講者の方のワークショップがすばらしかった(教員)。
- 自分だけがうまく話せない…となりがちだが、先生たちも緊張するということが分かり、自分らしくあろうという思いになった(その他)。

### 「発見したこと、嬉しかったこと」研修受講者

- 自分の発表やファシリテートに興味をもって聞いてくれた人がいたことが嬉しかった。自信になった(教員)。
- 国際理解教育に興味を持っている人が、近くにこんなにもたくさんいる。今後自分の活動に後押ししてもらっているよう(教員)。
- みんなが「笑顔」だった。本当に嬉しかった!
- 仲間と出会うことのすばらしさ。知らない世界を知る楽しさ。確実に輪は広がっている!!(教員)。
- 意見は違っても、方向性は同じだという人が多くいた(教員)。
- 他の人の実践を知り、またやっていきたいことが増えた(教員)。
- チームでワークショップを考えて実践するのは、学校で 1人で考えて作ったプログラムと違って多様な視点や考えに触れることができる。実施後の達成感と気づきが大きかった(教員)。
- ファシリテーターを実際に経験して、参加者とは違う視点で学ぶことができた。失敗からも学べるものがある(教員)。
- 伝える大切さを改めて知った。発表することで自分の実践を振り返ったり課題に気づいたりすることができた(教員)。
- 去年フォーラムに参加し、自分が発表する立場になったことに感動を覚えた。自分の 1年の進歩を感じた(教員)。
- 参加型の楽しさを再発見した(行政)。
- 今日がスタート。来年も頑張る(教員)。
- 自分が行動することが、よりよい未来の一步になる
- 未来は可能性に満ちていることが確信できた(教員)。

## 「つなげていきたいと思ったこと」初参加者

- 学校現場で自分が実践しようと思った。やってみなければ始まらない!! (教員)
- 来年度、総合的学習の時間に国際理解教育が始まる。今日の学びを生かしてぜひ良い物を作り上げていきたい(教員)。
- 生徒の力を信じて、生徒が考える、話す、書く授業を作る(教員)。
- 他者理解や肯定的な見方の視点。お互いを認め合う活動を多く取り入れていきたい(教員)。
- 他人事にさせない教育者としての立場(教員)。
- 国際理解教育に触れる場として、生徒たちにこの企画をもっと紹介していきたい(教員)。
- 私を通して、日本の子どもと世界の子どもをつなげたい(教員)。
- 教育現場の実例を知ることができた。ESD や人権の実践積極的にトライしてみたい(学生)。
- 子どもに指導する立場になったときに、ただ教科を教えてだけでなく、世界や日本で起こっている問題に対して真摯に向かい合い、未来の担い手として成長し合えるようになりたい(学生)。
- ファシリテーターとして学ぶ部分が多かった。いろいろな人の「やる気」を引き出せるような場を作れるよう取り組んでいきたい(行政)。
- ワークショップはすぐには難しいが、情報発信はできる(行政)。
- 各国の現状以前に、まずは文化やその国に対する理解を深める活動から始めたい(学生)。
- 人の意見を受け入れて発展させていきたい(学生)。
- このフォーラムのような場で知識、経験のある人とつながりを持ち、話を聞くことが今、自分のすることだと思った(学生)。
- 人と積極的に交流していきたい。(学生)。
- 伝える力をつけていきたい(学生)。
- 誰とでも対話する力をつけていきたい(その他)。
- 研修で出会った仲間と毎年この研修に参加している方々と縦と横の関係のつながりが結びつき、東海エリアにおける国際理解教育の輪が広がって行けばと思う(教員)。
- これからもこのフォーラムに来てパワーをもらおう。つながりを確かなものにしよう(教員)。
- よりよい未来に向けて一人ひとりが意識して行動することで変わることがあると伝えていきたい(教員)。
- 世界のことを身近に感じることができ、今後の広がりが変わってくると思える(その他)。
- 世界に目を向けると共に、自分のそば、周囲にいてくれる人たちを大切にしたい(教員)。
- 自分の生活を見直し、行動を変える(教員)。
- 正しい知識をつけたい。感情だけ持っても何も変わらないと思う。自分の強みにできる分野をもっと伸ばして貢献していきたい(学生)。

## 「つなげていきたいと思ったこと」2回以上参加者

- 学校全体で国際理解教育に取り組む!
- 開発教育は、学ぶ意欲を高められる。低学年でも取り組んでいきたい。また、職場の仲間にも広めたい(教員)。
- 会社でも参加型を少しずつ広げたい(その他)。
- 日常意識せずに口に入れている物に、世界とつながる問題が隠れている。参加するだけでなく、実践しながら学んでいきたい(教員)。
- ワークショップの場を増やす努力をする(その他)。
- 違いを認め合うこと。楽しく学ぶこと(教員)。
- 良い悪いの判断をするのに、どの軸で考えるかを俯瞰する力をつけたい(教員)。
- この研修で学んだことを活かして、少しずつ続けられることをしていこう(教員)。止まらず(教員)
- 海外研修に申し込みたい(教員)。
- 今はまだ開発教育に興味・関心がない人を、これからどう仲間たちにして増やしていくのが大切。そのために自分にできることを考え行動していきたい(教員)。

## 「つなげていきたいと思ったこと」研修受講者

- 社会に問題意識を持ち、一人ひとりが考えて行動できるよう、参加型の授業を実践していきたい(教員)。
- 外国の事、日本の事、友人の事、自分の事を、子ども達と一緒に考える(教員)。
- 国際理解教育は教科を超えてできるもの。争いのない社会づくりを目的として、参加型での授業を続けていきたい(教員)。
- やってみたいと思った実践は、臆病にならずにどんどん子ども達に対してやっていきたい! 自分も子どもも成長できる!(教員)。
- 開発教育を行うこと自体が、よりよい社会に向けた行動。これからも続けていく(教員)。
- 国際理解教育の大切さを若い世代の先生に伝えていきたい(教員)。
- 参加型の手法を他の先生方に伝えたい(教員)。
- ファシリテーションを用いた校内研修(教員)。
- 出前講座など、積極的な情報発信(教員)。
- ファシリテーターとしての技術をUP(教員)。
- セミナーなどに参加して、学びを継続していきたい(教員)。
- 同僚が2人来てくれた(教員)。仲間を増やしていきたい(教員)。今回の研修でできたラオスチームを始め、受講生同士のつながりをつづけていきたい(教員)。
- 研修で学んだことを、このフォーラムで締めくくるのではなく、自分でもっと伸ばしていきたい。そして、国際協力の輪を広げたい(その他)。
- 今日お話をした皆さんと、これからも繋がって広がり深みを持っていきたい(その他)。